

匿名希望

5年前の東日本大震災のとき、僕は小学3年生でした。地震が起きたとき、僕はいつも通り授業をやっていました。突然のことだったので、とてもおどろきました。なんとか机の下にかくれることができました。机や机が周りに動くので、僕は机にしがみついて机の下から出ないようにかんばりました。周りには泣いている人もいて、その時間かとても長く感じました。ゆれがおさまると、校舎の中から校庭に避難しました。外は3月ですが、すごく寒かったです。少しの間待っていると、家からむかえが来たので、家に帰ることができました。家に帰る道では、周りの家のへいがこわれていたりしました。家に帰ると、また幼稚園に通っていた弟は車に乗っていました。家の中はテレビが倒れたり、食器が落ちたりしていて、ぐちゃぐちゃになっていました。テレビで見ると色々な所がこわれていてとてもおそろしい思いをしました。

匿名希望

私は、あの日体調が良くなく卒業式が終わ
 り帰る、とき恐怖と人とで家にいました。姉
 の携帯電話が聞こえたのも音が聞こえて
 坂の瞬間地震が発生しました。何のりの部屋
 では皿が落ちる音がし、テレビを壊えたと全
 て地震の、とばかりかと思ってもわからなかったです。
 何う何うと動ま続けたい感じは一生忘れま
 せん。母が呼吸をみだして手が走り、帰る、と
 きて外に避難しました。その日の夜は、予震
 ばかりで食器や物入れの物を入水に、うんを
 音かいたが寝ていました。が、入水も電気
 も全て止まり、テレビを見ながら当時ろ年生
 だ、私にはほともつが、たひす。
 とも、うんやたどで津波の被害を聞くとも
 と大変な人たちがいることを知りました。
 私がいんたに木更でつがりのにこの人たちは
 どのがけつが思いをしる子のたうと。
 私はも、とも、といんばうと思いました。
 今、つがりのとがあ、ともあの時つとを
 思い出し、いんばう、とひまあ。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 栗山 新成 年齢 14 歳 職業・学校名 野田中学校

東日本大震災からもう五年がすぎました。
 五年前よりは、放射線に対する意識はうま
 くなりました。あのときは、放射線の影響が外
 に出ることも可能でした。そしてとびさした
 電気により、毎日が大変でした。電気がな
 くおぼろげな、たとえおぼろげでもうましか、た
 び可。日常生活の中を歩いたり前のことか
 だけかぼろげしいそのおぼろげなことを知り
 ました。今の現状からすると、原子力発電所
 は悪いものの、見えたりかぼろげな人も
 火力発電所などはやはり、この先も電気を便
 利にするには必要か、と使はるべきです。
 原子力発電所には備えたりして、この先も
 日本には、原子力発電所が必要かと思
 います。これは、この福島がたまたま五年た
 った復興したことに対して、この感動して
 います。かかると、原子力発電所付近への帰宅は、
 難しいものか、といます。これは、何年
 かかると、五年たつて、まだ福島は
 この先の復興もか、といます。

氏名 久保田陽菜 年齢 13歳 職業・学校名 福島立市野田中学校

2011年3月11日午後2時46分。何事
もなく普通に授業を受けていたあの日、大き
な地震が私たちをおそいました。机の下に身
をひそめ、校庭に飛び出しました。周りを見
ると、泣いている友達がたくさんいました。
あの日のことを聞くと、さまざまなお話を
思い出します。近くの親せきが私の家に集ま
ってみんなで過ごしたこと、祖母がストーブ
を使って料理を作ってくれたこと、幼いいと
こがテーブルの下にもぐっておびえていたこ
と、暗いリビングがど同じCMばかり流れてい
るテレビを見ていること。たくさんのお話を
思い出します。
5年たとうとしていいる今、これから明るい
未来にしていくため、私たちがしなければ
いけないことがあると、私は思います。それ
は、あの大地震を知らぬ未来の子どもたち
に、伝えていくことです。また私たちも、命
の大切さを知り、あの日のことを忘れること
なく、福島復興を目指していきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 桑原 優一郎 年齢 14 歳 職業・学校名 野田中学校

2011年3月11日僕たちがまだ3年生だ
 った時東日本大震災がありました。その時は
 雪が降っていてみんなが下ふるえがから親が来
 るのをまっています。家はもろ人さんさ
 んにしていて電気、ガス、水もつかえませんでした。
 ですがおばあちゃんの家は僕の家とさ
 かいさんさんらしく電気なども全部使えま
 したとても安心しました。それに飼っていた猫
 がたんすの下じきになっ、ていると思っ、たので
 すがかまが支えになっ、て下じきになっ、て
 います。とても安心しましたがテレビを見た
 ら津波の被害があった家、家族を失った家
 などいろいろの情報を目に飛びこい、てきまし
 た。僕はその時何の被害にもあわなく家族を失
 った。嬉しいのは僕おけなはんじやないかと思っ、
 ました。
 少し落ち着いたらとき母とおばあちゃんが僕の
 家に来ました。とてもさんさんして、て片づ
 けが難かしかった。たそうです。もし次に人な
 とがあ、たら次は僕が家族を守ります。

匿名希望

わ	た	し	が	小	学	3	年	生	の	こ	ろ	東	日	本	大	震	災	が		
お	こ	り	ま	し	た	。	こ	ん	な	大	き	な	地	震	は	人	生	初	め	
て	で	、	人	生	最	後	の	大	き	な	地	震	と	な	る	で	し	ょ	う	。
地	震	が	あ	っ	た	日	私	は	小	学	校	の	教	室	に	い	ま	し		
た	。	い	っ	ち	も	通	り	ふ	っ	つ	に	授	業	を	行	っ	て	い	た	と
こ	ろ	急	に	大	き	な	地	震	が	な	っ	て	放	送	で	「	机	の	下	
に	か	く	れ	な	さ	い	」	と	指	導	が	あ	り	、	か	く	れ	て	い	
る	間	も	テ	レ	ビ	が	落	ち	、	机	の	上	に	あ	っ	た	物	が	床	
の	上	に	こ	ろ	が	り	、	そ	れ	を	よ	け	な	が	ら	私	達	は	校	
庭	へ	と	ひ	な	ん	と	ま	し	た	。	校	庭	で	家	族	の	む	か	え	
◇	が	く	る	ま	で	待	っ	て	い	る	と	雪	が	降	り	、	防	寒	着	も
何	も	着	て	い	な	く	寒	く	て	ふ	る	え	た	こ	と	、	ひ	な	ん	
と	た	こ	と	、	こ	の	日	行	っ	た	こ	と	は	今	で	も	志	れ	て	
い	ま	せ	ん	。	志	れ	て	は	な	ら	な	い	と	私	は	思	っ	て	い	
ま	す	。	そ	れ	は	私	達	以	上	に	昔	し	ん	で	い	る	人	達	は	
た	く	さ	ん	い	る	か	ら	で	す	。										
私	は	少	し	で	も	は	が	く	皆	が	あ	た	り	ま	え	の	こ	と		
が	あ	た	り	ま	え	に	で	き	る	よ	り	、	ふ	っ	つ	の	生	活	に	
も	ど	れ	る	よ	り	、	心	か	ら	願	っ	て	い	ま	す	。				

匿名希望

ぼくは、5年前9歳でした。その年の3月
 11日の2時30分ごろに大きな地震が
 ありました。とても水で船に乗って川を
 感じることができました。ぼくは、
 二人で大きな地震は初めて
 体験したので、どうなるのかなと心配し
 ました。電気は使えなくなった、水は2
 日後ぐらいに使えるようになったので、
 とても不便でした。また、放射線と
 いうのもあって、これが、たまたま、
 放射線があったせいで、外に行くの
 が少し減った。運動するの
 が少しだけ減って、ちよつと悲
 しいかゝたです。でも、プールの習
 い、外であまり運動はしな
 かったので、その間に生活の
 変化はなかったです。
 二本からは、原発の事故がな
 りました。原爆を使ったり、
 地震が起きたら、いのちの
 危険が、この震災のきょう
 くに人を生かして、このよ
 うな事故が、つなみのた
 りがなくなるといって
 くれません。二本からは、
 復興を早くしたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 奏介

年齢 14歳

職業・学校名 福島市立野田中学木立

5年前、3月11日にあの震災が起きました。
 当時、僕は小学生で授業中でした。突然の大
 地震にその場にいた全員が驚き、手ぐに身を
 隠しました。すぐにおさまるだろうと思。て
 いましたが、そんな事はなく、予想より長く
 震れ続けました。そして、教室に置いてあ
 る物がほとんど床に落ちたのを見て、危険を
 感じました。先生の誘導で外に出る途中、壁
 が柱にひびが入っているのを見て、恐怖も感
 じることが多くなりました。外に出た後は、待つ
 しかありませんでした。しばらくして祖母が
 来て、家まで送ってくれました。
 その後の生活は、電気、ガス、水道が止ま
 り、とても不便で、それらの有難さがよく分
 かりました。何日かた、それらが復旧した
 時の喜びは、今でも覚えております。
 今では復興が進み、元に戻ろうとしていま
 す。まだ完全ではありません。あの震災で
 失ったものは多くあります。早く全てが元
 に戻ることをお願いします。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私が小学校3年生のころ、東日本大震災が
 起きました。今まで聞いたことのない地鳴り
 と大きな揺れが小学校をおそってきました。
 私達は直ちに机の下に身を隠しました。しか
 し、力いっばいおこえないと机がひろんな方
 向に動いていってしまいました。その日、学
 校を休んでいた人の机は教室の中を右往左往
 していました。棚から落ちたテレビ、机の中
 の教科書、みんなのランドセル。棚に入って
 いたほうき。教室の中にあつたものすべてが
 散乱し、避難するにも落ちた物をふみぎるを
 得なくなりました。外に出ると、雪が降り始
 めました。防寒着を着ていない私達は、とて
 も寒くふるえていました。予震が起きるたび
 に校舎が揺れ、悲鳴が起こりました。家に帰
 っても水が出ない、電気が通らない、食料が
 ないという苦しい生活でした。
 私達が体験した東日本大震災は絶対に忘れ
 てはいけないうし、次の世代につなげていかな
 ければならないと感じました。

(20文字 × 20行)

匿名希望

僕は、五年前は、まだ小学校3年生で、ちょうど授業をやってる最中に地震が、おこりました。先生の指示で、机の下に入りました。たあとに、テレビが落ちました。その時の出来事は、今でもときどき夢に出てくる時があります。一回、地震が、やりました。先生の指示で外に出ました。その時、外は冬が降って、とても寒かったです。お思いをしました。家に帰ると、棚や冷蔵庫が動いたり、しました。電気がつかなくなり、暗いなか、車で祖母の家に行きました。祖母の安全を確認したあや家に帰り、ためといた水、ロウソク、かいちゅう電灯の生活が始まりました。夕方の中に夜ご飯を作り、ロウソクの明りで、ご飯を食ったり、かいちゅう電灯をも、そんいれに行ったりした。苦労したことは、今でも忘れることは、ありません。僕達が体験したことは、次の世代に受けついでまたその次の世代がほかの世代へ受けついでこの震災が忘れないうちにしていきたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への願い」応募用紙

氏名 高橋和哉

年齢 13 歳

職業・学校名 福島市立野田中学校

0412

5	年	前	の	3	月	11	日	、	僕	は	小	学	校	3	年	生	で	し	
た	。	普	段	通	り	生	活	し	て	い	た	僕	は	さ	ま	の	大	地	
震	が	襲	い	ま	し	た	。	長	く	激	し	い	揺	れ	が	つ	づ	ま	
し	た	。	あ	の	と	き	の	周	圍	の	様	子	、	状	況	は	今	で	も
す	が	に	思	い	出	す	こ	と	が	で	き	ま	す	。	思	う	ま	う	に
動	け	ず	転	ん	で	し	ま	っ	た	り	し	た	こ	と	。	流	き	声	や
津	波	だ	と	思	わ	れ	る	音	を	聞	い	た	こ	と	。	怖	く	こ	み
ん	が	で	ぎ	っ	す	り	か	た	ま	っ	た	こ	と	。	思	い	出	し	た
く	な	く	こ	も	頭	の	な	が	に	浮	か	ん	で	し	ま	い	ま	す	。
そ	し	て	、	そ	の	後	の	原	発	事	故	。	僕	は	大	熊	町	に	住
ん	で	い	た	の	で	、	福	島	市	、	そ	し	て	会	津	若	松	市	へ
と	避	難	し	ま	し	た	。	会	津	で	友	達	と	再	会	し	た	と	き
は	本	当	に	嬉	し	か	、	た	で	す	。	友	達	の	大	切	さ	を	感
じ	ま	し	た	。															
僕	は	将	来	、	教	師	に	な	り	た	い	と	思	っ	て	い	ま	す	。
が	、	た	と	き	に	は	復	興	し	た	福	島	県	、	大	熊	町	で	働
き	た	い	で	す	。	そ	し	て	、	あ	の	震	災	の	被	災	者	と	し
て	、	次	に	伝	え	て	い	ま	す	い	で	す	。						
復	興	が	進	み	、	早	く	ふ	り	さ	と	へ	帰	れ	る	こ	と	を	
願	っ	て	い	ま	す	。													

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

0413

氏名 丹治 めい 年齢 14 歳 職業・学校名 福島市立野田中学校

今でも忘れることができない、「あの日」
 の記憶一。
 突然の出来事だ。ただただ、ぼう然と
 する。『オー』という轟音の奥で放送のスト
 ーカが何かを必死に訴えるが、それはぼぼ
 無かに近い。見えないうちに強くて体を揺さぶ
 られる感覚と、何が起こっているのかを悟っ
 たのは同時だった。家は大丈夫か。家族は無
 事だろうか。そのことばかり考えて校庭へ走
 る。しばらくして、母が迎えに来た。家族は
 無事で、家の中は物が散乱してはいたが、幸い
 にも水や電気は通っていた。しかし、テレビ
 に映し出されるその映像を見て、思わず体が
 硬直する。黒く大きな波が、まるで意志を持
 っているかのように暴れ、あるゆる物を飲み
 込んでいく。少しでも、ここに津波が来なく
 て良かったと思う自分にいら立ちを感じる。
 私に何かできないか。そう思った。
 震災から5年経た。た今、一刻も早い復興を
 願ひ、今自分にできることをしたいと感じる。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 蛭川 港平 年齢 14 歳 職業・学校名 福島市立野田中学校

僕	は	五	年	前	、	三	月	十	一	日	に	あ	の	地	震	に	み				
ま	わ	か	ま	し	た	。	東	日	本	大	震	災	で	す	。	僕	達	は	そ		
の	ま	ま	で	に	も	何	度	か	地	震	を	経	験	し	た	こ	と	が	あ	り	
ま	し	た	が	、	そ	の	ま	ま	で	の	ま	の	と	は	比	較	で	ま	な	い	
ほ	ど	の	ゆ	え	に	、	当	時	小	学	三	年	生	だ	、	た	僕	は	、		
た	ま	ま	ず	混	乱	し	ま	し	た	。	そ	し	て	、	地	震	に	よ	り		
び	が	か	い	り	、	家	具	が	ぐ	ち	ぐ	ち	に	な	っ	た	我				
が	家	を	見	て	、	絶	句	し	ま	し	た	。	そ	の	後	！	僕	の	家		
は	建	て	直	し	今	で	は	軽	し	く	な	っ	て	い	ま	す	が	、	あ		
の	日	見	た	光	景	は	今	で	も	く	。	ま	り	と	覚	え	て	い	ま		
す	。	ま	た	、	食	料	不	足	や	水	不	足	な	ど	で	も	い	ら	い		
る	な	苦	勞	を	し	ま	し	た	。	あ	の	か	ら	五	年	、	僕	は	中		
学	生	に	な	り	、	東	日	本	大	震	災	の	影	響	を	受	け	て	、		
今	後	日	本	が	行	う	べ	き	な	と	思	う	こ	と	を	、	考	え	仕		
じ	め	ま	し	た	。	も	う	二	度	と	、	あ	の	よ	う	な	光	景	に		
見	た	く	な	い	か	ら	。	日	本	は	地	震	多	発	地	帯	な	の	で		
こ	の	ま	ま	で	も	地	震	が	起	き	ま	す	か	も	し	な	ま	せ	し	。	そ
の	と	き	、	地	震	で	悲	し	む	人	が	一	人	で	も	少	な	く	な		
る	よ	う	、	津	波	や	地	震	の	対	策	を	一	ヶ	所	で	も	多	く		
の	場	所	で	行	っ	て	も	い	い	た	い	と	思	っ	て	い	ま	す	。		

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 南澤 貴壇 年齢 14歳 職業・学校名 野田中学校

東日本大震災の日僕は小学3年生で教室に
 いました。教室ではみんなワークをやってい
 たのでワークな心が机から落ちてきたりして
 教室の床が足場の無い状態になりました。机
 の下にいたとき、教室にあったテレビが目の
 前で落ちてきてびっくりしたのを今でも覚え
 ています。体育館に移動し親がむかえに来る
 のを友達と待つているとよ震でライトがゆれ
 たりしていてすごくこわくなりました。親が
 来て家に帰る途中にあるマニホールが地面か
 ら飛び出していて大きな地震だ、とんだなと
 実感されました。家でも学校同様のあり様に
 なっていったさらに、水と電気が止まったりと
 大変でした。

東日本大震災後、さまざまに人たちの助け
 があり今僕たちが過ごせています。ですが、
 まだ苦められている人もまだいることある
 ので復興が進んでいても苦められている人が
 少しでも楽になっ、てほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

5	年	前	の	3	月	11	日	、	午	後	2	時	4	6	分	、	私				
が	小	学	3	年	生	の	と	き	に	大	き	な	地	震	が	あ	り	ま	し		
た	、	お	さ	な	か	、	た	私	は	泣	い	て	し	ま	い	ま	し	た	。		
校	庭	に	非	難	す	る	と	き	、	涙	が	前	が	見	え	な	く	つ			
必	死	に	な	っ	て	に	げ	て	い	た	こ	と	強	く	覚	え	て	い	ま		
す	、	非	難	し	っ	か	ら	少	し	ず	っ	時	間	が	た	っ	に	っ	れ		
お	か	え	に	乗	る	親	が	い	て	友	達	が	帰	っ	て	い	ま	し	ま		
し	た	。	し	ば	ら	く	し	っ	私	も	無	事	に	帰	る	こ	と	が	づ	き	
ま	し	た	。	家	に	帰	り	、	テ	レ	ゼ	を	つ	け	る	と	福	島			
市	よ	り	も	ひ	ど	い	被	害	を	受	け	て	い	る	こ	と	を	知	っ		
て	と	つ	も	あ	ど	る	き	、	こ	ゆ	が	、	た	で	す	、					
そ	れ	で	家	を	な	く	し	、	家	族	を	な	く	し	た	方	も	い			
ま	す	。	5	年	立	、	た	今	ど	も	仮	住	居	に	住	ん	で	い	る		
方	が	た	く	さ	ん	い	ま	す	。												
で	も	、	ど	ん	な	に	悲	し	く	て	泣	き	た	く	て	も	前	を			
見	て	進	む	し	か	あ	り	ま	せ	ん	。	せ	く	な	、	た	大	勢	の		
人	た	ち	の	分	も	強	く	望	ま	し	て	い	こ	う	と	思	い	ま	し	た	。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大和 杏奈 年齢 14 歳 職業 学校名 福島市立野田中学校

2011年3月11日の午後2時46分地震は
 とつぜん私達をおそった。その激しいゆれに
 当時3年生は、私は、ただただそのゆれに
 おびえることしかできなかった。ゆれがおさま
 り机から出ると、教室は大変なことになっ
 てしまいました。テレビは棚から落ち、ランドセ
 ルは机の上に落ちてしまいました。この時のことは
 さっと一生たれることはないでしょう。
 私達は、外へ出ました。雪が降り、とても
 寒かったのを覚えています。友達とくっつ
 き、少しでも暖かくなるようにしました。
 その後、おばあちゃんがおがえに来ても
 と、家に帰りました。その後、家族で、電
 気のあるじいちゃん家へ行くことにしまし
 た。向かっている間電気が来てないので町は交
 通まひしてしまいました。でもみんな道をゆがり
 あんなかた運転している姿を見て、私は福島
 民は思いやりのある人が多いなと感じました。
 人の気持ちを考えることは大切だと東日本大
 震災から学びました。

今から5年前、東日本大震災がおきました。
 お母さんが学校までむかえに来てくれた事が
 安心して泣いてしまった事を覚えています。
 でも、家に入ったら、これは自分の家だと思
 えないうち、大変なことになるりました。鏡
 は割れ、タニスは倒れて、かべも倒れて中の
 木がむき出しになっていました。しかし、ガ
 スと水は使えたので、みんなでイニスタント
 ラーメンを食べて車にねました。でも姉だけ
 が郡山から帰って来られなくて、郡山の友達
 の家にお世話になっていました。こんな家で
 したが一つだけ近所のみんなを手助け出来る
 ことがありました。それは、水でした。私の
 家は井戸があるので、たくさん役に立てたか
 らと思います。倒れて木がむき出しのかべも
 近所の方々から、お礼にとお金をもらい直す
 ことができました。こうして、みんなの協力が
 あったからこそ乗りこえられたと思います。
 福島は復興が進んでいません。だからこそ、
 みんなで協力して福島を元気づけたいです。

匿名希望

東日本大震災から、あと2ヶ月ほどで5年
になります。津波の打った中通りの私の周
りには、大震災前のような生活にほとんど戻
っています。建物が壊れてなくなっていたり、
またそこに新しい建物が建てられていたり、
変化はあったけれど、今ではもう元通りの生
活だと思えます。けれども、ゴミやスズなどを見
る浜のほうはまだ復興が進んでおらず、未だ
気がつかない生活を送っている人がたくさんいま
す。私の身の周りにはあまりそうではなく感じ
るので、ついそんな人たちもいるということ
を忘れがちです。同じ福島に住んでいる者と
して、できることはやっていかななくてはなり
ません。実際に大震災が起きたあと助けてく
ださった方はたくさんいます。そんな人たち
同様、将来は多くの人役に並ぶような人
になりたいです。そのためにはまだまだ学ば
なければいけないことが多くあるので、一生
懸命勉強をし、積極的にさまざまなことに挑
戦していきたいと思います。

氏名 五十嵐 科 年齢 14歳 職業 〇 学校名 野田中学校

僕は三月十一日の東日本大震災が起った
 ときは三年生でした。僕たちは授業としてい
 たら急に机などが揺れ始めました。そして時
 間が過ぎるごとに、揺れはどんどん大き
 くなり、倒れました。回りにある教科書やカ
 ーに入、下りるエレベーターなどが落ち始め
 ました。僕はこんな大きな地震は初めてだ
 ったの下、とても怖かったです。そして、揺
 れが少しおさまった時に先生の指導で外へ逃
 げました。そして回りを見ると泣いていたり人
 がたくさんいました。学校で少しいたらず
 かに家へ帰りました。家の中を見ると、棚の
 中の本が落ちていたりしました。家は電気が
 水道が使えませんでした。エレベーターを見ても
 地震で道踏にひびが入っていたりしました
 そして今でも、道、エレベーター道踏や放射線が
 あるところもあります。今後は、そのように
 地域を中心に復興をして行って、東日本大震
 災が起る予前やもう東日本にと新しく早く
 復元してほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

0422

氏名 伊藤 瑠香 年齢 11歳 職業・学校名 野田中学校

5	年	前	の	3	月	11	日	。	私	は	ま	だ	、	小	学	3	年	生	
で	し	た	。	午	後	2	時	46	分	、	大	き	な	地	震	が	お	き	
私	た	ち	は	机	の	下	に	身	を	か	く	し	ま	し	た	。	こ	ん	な
に	も	長	く	、	強	い	地	震	を	体	験	し	た	の	は	初	め	て	だ
た	の	で	、	私	は	と	て	も	こ	わ	か	っ	た	し	、	不	安	で	
も	た	。	ゆ	火	が	続	く	な	か	、	周	り	を	見	て	み	る	と	
テ	レ	ビ	が	落	ち	、	教	科	書	や	筆	記	用	具	な	ど	か	り	か
に	散	ら	ば	っ	て	い	ま	し	た	。	ゆ	火	が	お	さ	ま	る	と	
私	た	ち	は	校	庭	に	走	っ	て	避	難	し	ま	し	た	。	外	は	雪
が	降	り	と	て	も	寒	い	中	、	泣	い	て	い	る	生	徒	が	た	く
さ	ん	い	ま	し	た	。	親	が	お	か	え	に	く	る	の	を	ま	ち	
い	っ	し	ょ	に	家	に	帰	り	ま	し	た	。	家	の	中	は	散	乱	し
電	気	、	が	ス	、	水	道	全	て	が	止	ま	り	ま	し	た	。	そ	の
全	て	が	復	活	し	た	時	は	、	本	当	に	ら	い	し	か	、	た	の
を	今	で	も	覚	え	て	い	ま	す	。									
福	島	の	復	興	は	ま	だ	進	ん	で	い	な	い	の	が	現	実	で	
す	。	避	難	生	活	を	し	て	い	る	人	も	た	く	さ	ん	い	ま	す
1	日	で	も	早	く	、	復	興	が	進	ん	で	い	く	の	を	心	か	ら
願	っ	て	い	ま	す	。													

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

東	日	本	大	震	災	の	と	き	私	は	小	学	3	年	生	で	し		
た	。	普	段	ど	お	り	教	室	で	授	業	を	受	け	て	い	ま	し	た
が	突	然	大	き	な	地	震	が	起	き	。	み	ん	な	で	机	の	下	に
も	ぐ	り	ま	し	た	。	そ	の	後	。	校	庭	へ	ひ	た	ん	し	ま	し
た	。	急	い	で	い	た	の	で	ユ	ー	ト	も	着	な	い	で	雪	が	降
る	校	庭	に	逃	け	ま	し	た	。	と	つ	も	寒	か	っ	た	こ	と	は
中	学	2	年	生	に	な	っ	た	今	で	も	忘	れ	ら	れ	ま	せ	ん	。
東	日	本	大	震	災	を	体	験	し	た	私	た	ち	に	は	。	そ	の	
体	験	を	忘	れ	ず	。	伝	え	て	い	か	な	け	れ	ば	な	ら	な	い
と	思	い	ま	す	。	震	災	か	ら	約	5	年	が	た	つ	今	で	も	津
波	で	中	く	え	不	明	に	な	っ	て	し	ま	っ	た	人	で	見	つ	か
ら	な	い	人	が	い	ま	す	。	復	興	し	て	き	た	施	設	な	ど	も
あ	り	ま	す	が	。	ま	だ	復	興	作	業	が	途	中	の	地	区	や	放
射	線	の	影	響	で	立	ち	入	り	禁	止	の	地	区	が	多	く	あ	り
ま	す	。																	
こ	の	よ	う	は	所	が	少	し	お	つ	て	も	な	く	な	り	。	み	
ん	な	が	笑	顔	で	生	活	で	き	る	未	来	を	つ	く	っ	て	い	け
る	よ	う	自	分	に	で	き	る	こ	と	か	ら	ほ	い	め	て	い	ま	た
い	と	思	い	ま	す	。													

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小野愛梨

年齢 14歳

職業・学校名 野田中学校

僕は3月11日に学校にいる時に東日本大震災
 が起こりました。その時は学校だ、たので机
 の下に隠れましたが、周りのラウドセルやテ
 レビなどが落ちたりしてきてとても怖か。た
 です。家に帰。た後も色々なものが落ちてい
 たし、水や電気、ガスも止ま。ていて非常食
 しか食べられなくてつらか。たです。夜は地
 震が何回も起こ。てすごく怖か。たです。今
 ままで7回もあんな怖い思いをした体験はした
 ことがなか。たので、とても怖か。たです。

東日本大震災の影響で原子力発電所が爆発
 して外に出られなくな。たりしました。今で
 も放射線の問題で立ち入ることのできない村
 もあります。この震災で僕たちは怖い思いを
 たくさんしました。だからと言。てこの体験
 から逃げてはいけないと思いました。この体
 験を次の世代の人たちに教えていかないとだ
 めだ。と思います。そして被害を受けた村など
 がまた豊かな場所に復興してほしいと思いま
 す。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 勝山 あかり 年齢 13 歳 職業・学校名 野田中学校

3月11日に東日本大震災がありました。

私は、その日学校で国語の作文を書いていた時に、2つで大きな地震がきて、教室の電気のスイッチが外れたり、テレビが落ちたりしたのを覚えています。先生の指示で校庭に逃げていたが、雪が降ってすべく塞がったです。

3月11日以降も余震が続き、テレビも同じCMばかり流れて、水やガスが使えない日が続く、不便な生活でした。放射線により、外で運動するのと家でまわく、自由に遊ぶのと家でまわくをしませんでした。

今でも、自分の家がなく、仮設住宅に住んでいる人がいたり、自分の地元に戻りたくても放射線の影響で戻れない人もいます。

その人達のためにも、復興を進めて、仮設住宅に住んでいる人、地元に戻れない人も元の家、元の町に住んでほしいという想いがあります。今後のために大きな地震の対策を考えた方がいいのではないかと思います。

匿名希望

私が小学3年生の時にこの震災はあこりま
した。学校で授業をうけていて、その日はお
父さんからもらった新しい鉛筆を学校に初め
て持っていた目だという二とを今でも覚え
ています。多分、その鉛筆を使って授業をう
けていたんじゃないかと思います。その日は
ほんのいい思い出が下きるはずの日でした。
しかし、この震災がいい思い出をうばいさり、
これからの楽しく、安全で、平和な未来まで
もうばいさってしまってしまいました。そして
◇
多くの人の命をうばいさりしました。地域の人
の命を守ろうとしてせくなってしまう方も
いて、津波で、家が壊れて、それ下せくなっ
てしまった人もいました。その人たちの家族
の心の傷はいつまでも治る二とはないでしょ
う。復興は進んでいるかもしれないけれど、
まだまだだと私は思います。他の事にばかり
お金をかけていないで、復興のためにお金を
使ってほしいです。そして、人々の心の復興
も大事にしてほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野早紀 年齢 14歳 職業・学校名 野田中学校

三	月	十	一	日	に	東	日	本	大	震	災	と	い	う	大	き	な	地
震	が	あ	り	ま	し	た	。	そ	の	時	私	は	小	学	三	年	生	で
授	業	を	う	け	て	い	ま	し	た	。	家	に	帰	る	と	家	の	中
は	ぐ	ち	や	ぐ	ち	や	で	電	気	や	水	道	が	止	ま	っ	て	い
て	い	て	お	ぼ	あ	ち	ゃ	ん	の	お	家	に	行	く	こ	こ	に	な
り	ま	し	た	。	お	ぼ	あ	ち	ゃ	ん	の	お	家	は	電	気	や	水
道	な	ど	が	止	ま	っ	。	て	い	な	く	て	普	通	の	生	活	に
近	い	生	活	を	お	く	る	こ	と	が	で	ま	ま	し	た	。	学	校
に	も	し	ば	ら	く	行	け	ま	せ	ん	で	し	た	。	何	日	か	た
っ	て	よ	う	や	く	家	に	帰	っ	て	生	活	で	ま	る	よ	う	に
な	り	ま	し	た	。	で	す	が	、	ガ	リ	リ	ン	や	食	料	を	買
う	の	が	大	変	で	し	た	。	学	校	に	行	け	る	よ	う	に	な
っ	て	も	校	舎	が	た	め	に	な	り	ア	レ	ハ	グ	校	舎	下	授
業	を	う	け	て	い	ま	し	た	。	体	育	も	外	で	は	下	さ	な
く	て	大	変	下	し	た	。	何	年	か	た	っ	た	今	下	も	、	ま
た	け	う	し	ゃ	せん	が	高	い	地	域	が	あ	っ	た	り	し	て	す
が	復	興	し	て	い	な	い	と	ど	ろ	も	あ	り	ま	す	。		
な	の	で	早	く	復	興	し	て	い	く	る	こ	と	を	の	ぞ	ん	で
い	ま	す	。	震	災	で	大	き	な	津	波	が	た	ま	っ	て	し	ま
っ	た	か	た	が	た	志	い	ま	す	。	そ	ん	な	こ	と	も	思	い
な	が	ら	毎	日	を	生	活	し	て	い	ま	す	。					

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野晴菜 年齢 14歳 職業・学校名 野田中学校

震災があつてから、もう少しで5年目になり
 ます。福島はまだ多くの人が、自分の住ま
 れをたつた町へ帰れていません。地震で多く
 の建物が壊れ、津波でたくさんの命が失われ
 ました。そして今も続く避難生活に、人々は
 悲しみ続けています。

私の住む福島市では、たまに被害は無かつ
 たものの、食べ物や水、電気など、生活に
 足りてはならない物の不足がつかましました。
 とってもつらくて、悲しい日々でした。5年か
 たりとうとすも今も、まだもとどおりの日々に
 おく子ここのでできない人がたくさんいます。
 復興も完全ではありません。少しおつ少しお
 つで良いので、避難して来た人々が、もとど
 おりの生活にもいれるように、がんばつてほ
 しいと思います。

人ひとりの力は小さいですが、たくさんの
 人の想いは大きな力になります。私も、その
 一人になつて、皆が幸せでいれるように想
 へるようになりました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 五野 梨花

年齢 13 歳

職業・学校名 野田中学校

私達は、2011年3月11日に東日本大
 震災にあいました。大きなゆれで、津波が町
 や村をおそいました。私の家は屋根のかわら
 が落ちたりした以外には、水道、ガス、お風
 呂、電気は使えました。ガリリンスワンドは
 は、ガリリンが手に入らないうえ、今まで以
 上に値上がりしていき、くりました。食料
 は、コンビニなどで売り切れていて、ベニ
 マルなどで行列になつていて、並ばないと
 買えないぐらいでした。震災からもうすぐ6
 年がたとうとしている今は、津波の被害にあ
 った人も、かせつ住宅で暮らしていたり、震
 災の時、値段が高かった物も安くなってい
 りします。まだ、みんなが安心して暮らせる
 状況にはなっていないと思うので、全国の皆
 さんが復興のために募金をしてくれたりすれ
 ば、東北の復興に力があがるのかなと思います
 ました。ボランティア活動なども取り入れてくれ
 ばいいのかなと思います。私も将来、東北の
 ために役出つことができればいいと思います。

(20文字×20行)

匿名希望

僕は、5年も前におきたあの大地震のことを、今でも昨日のことのように覚えています。あの日、普通に授業をうけているとふいにあの大地震がやってきました。クラス中にひきわたる泣き叫ぶ声。少しおさまって校庭に出て、親が迎えに来てくれるのを待ちました。しかし、外はあいにくの大雲で、僕たちの不安はさらに高まりました。そして、迎えに来てもらって家に帰ると、そこには、たのは地震で本などが散乱した家でした。電気もつかない。水も出ない。足のふみ場もない。もう家がいつくずれるかも分からなような状況でした。たので、僕の家族は車の中で生活することになりました。姉は、東京行きの電車に乗っていたのですが、さしかい地震が来た1分後が発発時刻だったので、家に帰ってくることかできました。この時ほど、家族全員をえることのすばらしさを感じたことはありません。今では電気も水も使えますか。あの日のことは絶対に忘れず伝えていきます。

匿名希望

僕は二十一年の三月十一日に行。た東日本大震災を体験しました。その時僕は小学三年生で授業のさいちゅうでした。初めこの大きな地震にとってもおどろきました。校庭に避難してからと雪が急にふりだしたりし、災難が続きました。もちろん電気が通らなりので暗い体育館で長い時間親のむかえを待ちました。家に帰ると部屋はぐちゃぐちゃで足のふみばもなく、電気も水もないというこゝとでおばあちゃん家に行くことになりました。いとこもまていたので安心しました。しかしその安心してゐるなか、またと災難がおきました。福島原発の爆発です。その時僕はいとこと外で遊んでいたのだから放射線を浴びたと思いません。今現在検査した所、問題はなかったのほ、としました。

いろいろな災難がありましたかこれも一つの経験として多くの死をむかいたすことかくこれからと闘いしてゐたいです。

匿名希望

3月11日、小学3年生の私は授業を受け
ていました。少しずつゆれ始め、テレビやさま
ざまな物が落ちてきました。さらにどんどん
ゆれが強くなりました。私はその時とてもし
わかったことをよく覚えています。先生方の
指事に従い、校庭へ次は体育館へとひなし
ました。その後も余震が続きました。

現在はだいぶ復興が進みましたが、一部の
地域では東日本大震災の時からあまり復興活
動が進んでいないところもあると思います。

◇

東日本大震災で被害にあった人もたくさんい
ると思います。津波でも大切な物を失った人
もたくさんいると思います。

その復興活動の1つとして一人ひとりが自
分の出来ることをし、かり行い、協力してい
くことがとても大切だと思います。復興活動
はそう簡単に上手くいくことはなかなか難し
いことだと思いますが、被災者のために、み
んなのために今自分に出来ることをし、かり
やっていたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私は今、復興はあまり進んでいないと思っ
ています。原発の問題は解決していかく、解
決するため会議など年々なくばっていきま
うと思っています。また、こんなことがあつた
のに何かかわりが原発は再稼働に向けて動い
ているという事実は変わりません。日本の未
来のため、子どもたちのため原発を全てはい
らにし福島も原発をなくす県としてもっと復
興を進めるべきだと思います。東京電力は原
発への対策を明確にしなさいで事実から逃げて
いると感じます。また、政府もこの問題をさ
けていきたいと思います。日本にとって大きなさ
けては通れない問題。世界に福島復興をア
ピールし、また福島は自然の力を存じ守ら
しい所を見てほしいです。そのために政府の
と協力し福島県民も復興を進めるためにい
ちばんとあって福島の明るい未来を切り出し
ていこう強く願います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 田中 蒼空 年齢 14 歳 職業 〃 学校名 野田中学校

東	日	本	大	震	災	の	時	。	僕	は	小	学	3	年	生	で	し	た	。						
そ	の	日	は	雪	が	ふ	。	と	い	と	と	も	寒	い	日	で	し	た	。						
僕	た	ち	が	。	い	つ	も	の	よ	う	に	指	導	業	を	受	け	て	い						
た	ら	。	と	い	つ	と	い	人	大	き	な	地	震	が	お	ま	の	机	の	下	に	か			
く	れ	ま	し	た	。	教	室	の	テ	レ	ビ	が	お	ろ	と	ま	た	り	。						
と	い	と	も	大	変	で	し	た	。	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い		
人	し	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い		
と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い		
電	線	が	ま	れ	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	
い	つ	も	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	
日	の	夜	は	凍	む	す	こ	し	ま	し	た	。	水	、	電	気	、	か	ス						
か	つ	か	え	な	く	な	り	ま	し	た	。	次	の	日	は	水	を	も	ら						
い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	
た	く	さ	人	い	ま	し	た	。	次	の	日	は	水	を	も	ら									
水	か	つ	か	え	る	よ	う	に	な	り	ま	し	た	。	ほ	う	し	。	の						
う	が	家	に	な	ら	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い
した																									
今	ど	ほ	ど	。	世	人	の	お	か	げ	で	大	震	災	の	前	と	同							
い	よ	う	に	生	活	す	る	こ	と	が	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い	と	い

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤田 隼佑 年齢 14歳 職業・学校名 野田中学校

私は震災当時小学3年生でした。その日、
 私は土日に東京の方で体操の大会があり、学
 校を午前中で早退しました。そして、福島駅
 に行き、14時47分発の新幹線に乗りまし
 た。乗ってから数分後に地震が起こり、今ま
 でにない怖さがあり、本当に死んでしま
 うのではないかと思いました。地震がおさ
 まると、新幹線から降り、外に出まし
 た。私は、あと1分早く出発していら
 ったのかな、と思っていたのかと思
 うと今でも本当に奇跡だ、たの
 だなと思うことがあります。

それからの生活では電気、水、ガ
 スが使えなくなり、とても不便な状
 態が続き、大変でした。また、放射能
 の影響で外出をひかえたりするよ
 うになり、ストレスも足りました。し
 かし、この震災で多くの人がせくな
 り、生きていられるだけでも幸せな
 のだと感じました。それなので、今
 自分が水、電気、ガスを普通に使
 えて、やりたいことができるのは本
 当に幸せで良いことなのだと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤山 廉 年齢 14 歳 職業・学校名 野田中学校

僕は東日本大震災を体験してみても地震への
 本当の恐怖を知りました。外へ出る恐怖、放
 射線に対する恐怖などたくさんありました。
 僕が地震にあつたときはまだ学校にいて本当
 にびっくりしました。強いゆれでテレビが倒
 れたり本当に強いゆれでした。地震の後では
 予震が怖くておれませんでした。予震が続き
 不安でした。学校にも行けず、たすけを
 して貰うだけでした。この地震で亡くなつた
 人はたくさんいます。津波や建物に残つてし
 まうなどで亡くなつた人が多いと思ひます。
 今自分が生きてゐることを大切に、この地震
 で地震の本当の怖さをみんなに知つてほし
 と思ひます。また、この東日本大震災を知つ
 た人にも知つてほしと思ひます。なぜな
 ら、苦勞してゐる人のつらさを知つてほし
 がです。地震が起きたら自分が何をできる
 かを考えてほしと思ひました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 柳沼 珠実 年齢 14 歳 職業・学校名 野田中学校

私	が	こ	の	東	日	本	大	震	災	に	あ	っ	て	し	ま	、	た	の
は	、	小	学	三	年	生	の	時	で	し	た	。						
私	は	授	業	が	お	わ	り	、	友	達	と	し	ゃ	べ	っ	て	い	ま
し	た	。	す	る	と	、	い	ま	な	り	「	ダ	ラ	ッ	」	と	足	も
が	震	れ	て	、	し	だ	い	に	強	く	な	っ	て	い	ま	し	た	。
み	ん	な	「	ヤ	バ	イ	」	な	ど	と	さ	け	ん	で	、	先	生	も
ま	り	の	震	れ	に	ス	ト	ー	グ	の	え	ん	と	つ	た	し	が	お
っ	て	い	ま	し	た	。	先	生	た	ち	の	指	示	で	外	に	ひ	な
す	る	と	、	女	子	な	ど	は	う	ず	く	ま	っ	て	並	り	て	い
り	、	真	絶	し	て	し	ま	っ	た	子	も	い	ま	し	た	。	そ	の
時	は	雪	が	降	っ	て	い	て	寒	か	っ	た	の	を	覚	え	て	い
ま	す	。	そ	の	と	、	震	災	が	起	こ	る	少	し	前	か	ら	福
島	か	ら	鳥	が	き	え	ま	し	た	。	鳥	は	や	が	え	も	ど	、
て	き	た	も	の	の	鳥	に	は	地	震	が	お	こ	る	と	予	知	で
も	て	き	る	の	か	と	思	い	ま	し	た	。						
震	災	後	も	学	校	に	は	行	け	ず	、	水	道	も	と	ま	り	、
電	気	も	と	ま	り	、	お	ふ	ろ	に	も	入	ら	ず	と	て	も	厳
し	い	生	活	を	し	ま	し	た	。									
私	は	こ	の	体	験	を	忘	れ	ず	、	こ	れ	か	ら	も	生	ま	て
い	ま	い	と	思	い	ま	す	。										

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名山岸 真樹

年齢 14 歳

職業・学校名 野田中学校

3	月	11	日	に	僕	は	東	日	本	大	震	災	に	お	り	ま	し	た	
そ	の	と	う	時	ま	だ	小	学	3	年	生	だ	、	た	僕	は	、	ま	つ
て	の	授	業	が	終	、	て	よ	し	か	、	と	が	え	れ	る	と	思	い
た	時	に	震	災	に	お	い	ま	し	た	。教室	に	置	い	て	お	り	、	
た	テ	レ	ビ	が	落	ち	、	壊	れ	た	り	、	マ	ク	の	ラ	ン	ト	
セル	が	お	ち	て	一	時	ハ	ニ	、	ク	に	な	り	、	た	も	の	の	
先	生	の	言	い	こ	と	を	聞	い	て	無	事	に	退	校	難	ず	る	
こ	と	が	出	来	ま	し	た	。											
震	災	後	、	外	で	十	分	遊	べ	な	く	な	り	ま	し	た	が	、	
今	で	は	マ	ン	な	で	楽	し	く	遊	ぶ	こ	と	が	出	来	る	よ	
う	に	な	。	て	い	ま	す	。	で	も	ま	だ	、	福	島	県	の	海	
岸	を	い	な	ど	で	も	復	興	し	て	い	な	い	場	所	や	地	域	
が	た	く	さ	く	あ	り	ま	す	。	な	の	で	今	後	も	福	島	県	
全	体	が	力	を	合	せ	て	復	興	に	協	力	出	来	る	幸	来	て	
ホ	、	こ	ほ	しい	と	願	い	、	て	い	ま	す	。						
震	災	が	う	今	年	で	5	年	に	な	り	今	も	仮	設	住	宅	に	
住	ん	で	い	る	人	た	く	さ	く	い	る	と	思	い	ま	す	。		
そ	ん	な	人	た	ち	が	安	心	し	て	地	元	に	も	ど	り	、	安	
心	し	て	生	活	で	ま	る	こ	と	を	備	へ	願	い	、	て			
い	ま	す	。																

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 聖斗

年齢 14 歳

職業・学校名 野田中学校

僕は東日本大震災の時小学3年生でした。
 今でも印象にのこっているのは、教室の中に
 あったテレビが落ちたことです。さっぱりけ
 かったです。人はいなかったのか、たのですかすごくこわ
 かったことも覚えていいます。落ちてきた時す
 ぐい音でした。また天上の板が落ちたりしま
 した。それに机の下にかくれたのに机が横ゆ
 れラントセルや机の中にあつた物も教室にさ
 んざんしました。その時はすごくおどろき、
 こんな大きい地震だぞということもあらたやて
 知らされました。たしかん地震が来たら
 3分以内に校庭に行きました。冬で雪が降って
 いたので着たいで行ったのですがすごく寒くて
 たのを覚えていいます。親がおかえりに来てく
 たのは良かったのですが家に行くとみ子とテ
 レビがたかれています。いろいろな物が落ちて
 いました。その後、生活も大変で食べ物や
 お風呂などが買えなかったり入れなかったり
 しました。またこの地震が来てもし、かり
 と準備をしておきたいと思えます。

氏名 渡邊 雪江 年齢 13 歳 職業・学校名 野田中学校

私が東日本大震災を体験したのは、小学3
 年の時でした。私は山形県にいましたが、3
 月5日におじいちゃんが亡くなったので福島に
 父と姉と妹と私の4人が福島県に来ていまし
 ました。私達は3月11日に車で帰ろうとしている
 時に東日本大震災が起きました。最初のゆ
 れ初めた時に私はちょっとした地震だろうと
 思いました。でも、ゆれはどんどん強くなり
 少しいわくなりました。父も「おばあちゃん
 家に引き返えそう。」と言ったのでおばあちゃん
 家に戻ると、電気が止まっていて、部屋が
 寒かったです。その後も余震が続きました。
 山形県にいた母もとても寒かったそうです。
 断水してしまったので、水をもらいに行き、た
 りしました。いろいろな大変な事がかりました
 。この体験から私は、災害への対策をし、か
 り行っていて、災害に強い町をつくっていく
 必要があると思います。そして、また東日本
 大震災で大切な人を失った人の心も復興に向
 かってほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私が小学6年生の平成23年3月11日、この
 日は小学校の校庭で体育の授業をしていました。
 急に地面が揺れ、窓ガラスが割れ、先生の合
 図で全校生徒が校庭の真ん中に集まりました。こ
 れからは家族が迎えに来た人から帰るまで、
 二日となり、それから二日が不安だった。
 この日の夜は家にいれず、小学校の体育館で
 過ごした。私の家、通った学校は原発10
 キロ圏内にあったため、次の日の朝にはそ
 こにはいられなくなり、親戚の家に行くことにな
 った。中学校が始まるまで親戚の家で生活
 し、静岡で中学を卒業し、高校は地元の高校
 に入った。友達がいて、サッカーができてい
 て、震災当時は考えもしなかったけど、今は
 何不自由なく生活できていると思う。
 少しでも早い復興が誰もが望んでいること
 だと思います。誰もが何不自由なく暮らせる
 ことが一番だと思います。また、私はたくま
 しくのちに親切にしてください。たたくには
 生活していきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 荒 大地 年齢 17歳 職業・学校名 富岡高校

東日本大震災が起きた時、私は小学六年生
 でした。毎日なにげなく生活を送り、この日か
 この日からすべてが変わった気がします。いま
 が当たり前前より、たこが当たり前じゃなくほ
 りーみんなと遊んだり好きはサッカーが長い
 時間になりました。中学生になり、この時
 サッカーがしたく親と相談して山形県に避
 難してサッカーを続けさせてもらいました。
 中学三年間サッカーや、富岡高校に入学し
 ました。この高校に入って今、色々なことを
 考えさせられます。富岡高校も被災していて
 現在は福島北高校校内に仮設校舎を立て生活
 しています。こうやって生活している中で、
 感謝の気持ちを忘れず、被災した方々に自分
 達がサッカーを通して少しでも元気や勇気を
 与えられればいいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 上野 莉緒

年齢 17 歳

職業・学校名 富岡高校

震災当時、私は小学6年生だ、た。掃除が
 終わり帰りの会をしている時、いきなりス
 ーブが揺れて、スラブの上に置いてある水
 がこぼれた。揺れが収まると、スラブの上
 に置いてあった水は、なくなっていた。揺れ
 がなくなると考えて見ると、とても大きな地
 震だ、と考えることができた。家に帰って
 からテレビをつけてみたが、すぐの番組で
 地震のことが取り上げられました。その中
 でも津波のことが一番取り上げられていまし
 ました。私は生まれて始めて津波の怖さを知り
 ました。私は、テレビを見ながら口を開いて
 いました。これも、一瞬にして、家や車、人
 などのみごんでしまっていたからです。私
 は当時、小学6年生だ、たので、もしかして
 自分の住んでいる会津まで津波が来るかも知
 らないと思っていました。正直、あの時は人
 生の終りを感じていました。今こうして字
 を書けていることが何人とも等しいことだと
 改めて感じます。

「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

匿名希望

東日本大震災が起きた時、家の自分の部屋
 にいた。私は、少し大きい揺れだぐらいに思
 っていたが、しばらく後に大きくなり、電気がすぐ
 い切れてゆれていたのを今でもおぼえている。
 震災後は、TVのチャンネルは全てニュー
 スになり、水も出ない。祖母の家は半壊にな
 り、とても怖い思いをした。天気も急に悪く
 なり、地震が続いて、本当に日本が終わって
 しまうのではないかと不安に思った。
 中学生活を送って行く中で、復興が進み不
 自由なく生活することができるようになった。
 だが、自分は富岡高校に入学してサテライト
 生活を送る中で、また震災を考える事が増え
 た。自分達の本来の校舎には通えず、ケラン
 ドも借りながらサッカーをしている。全校生
 がそろうのは年に数回と、普通の生活を送る
 ことできない。しかし、その中でもみんな
 明るく元気に生活している。
 素晴らしい状況を目標に向って仲間と一緒に
 頑張りたいと思う。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 志藤 新

年齢 17 歳

職業・学校名

富岡高校

小学6年生の3月11日の帰りの会をしてい
 る時でした。大きな揺れが来ました。私はこ
 の地震がこんなにも日本中を混乱させると思
 思、ていませんでした。恐怖と共に家族が心
 配になりましたが、みんな無事で安心しまし
 た。しかし、帰ると電気がつかず水も出ませ
 ず。家具や食器が壊れてい言葉も失い本当
 に自分の家が疑ってしまおうほどでした。それ
 からはず、どこからどう父のたろくと不
 安な気持ちに押しつかせようでした。あの
 時を思い出すだけで怖くなりません。だけとテ
 レビを見ると、津波で行方不明の人々と死者
 がいと私は自分より怖い思いをしてる人が
 こんなにもいるのかと衝撃を受けました。そ
 うい、た被害がある中で一刻も早く除染作業
 を進めてほしいです。私は全校生徒もそろわ
 ず学校業事もない中でアレンが校舎に通、て
 います。今は避難区域にある富岡高校の本校
 舎に全校生徒が笑顔で通える日々を心から願
 っています。富岡の輝きを取り戻したいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

2	0	1	1	年	3	月	1	日	金	曜	日	、	午	後	2	時	4		
0	分	頃	、	東	日	本	大	震	災	が	起	き	た	時	私	は	小	学	6
年	生	で	学	校	の	教	室	で	帰	り	の	会	を	し	て	い	た	。	い
つ	も	ど	お	り	帰	り	の	会	を	し	て	い	た	時	小	さ	い	揺	れ
が	ま	た	ん	で	す	が	そ	れ	は	す	ぐ	お	さ	ま	ら	ず	た	ん	だ
ん	強	く	な	。	て	き	て	教	室	の	物	が	す	べ	て	落	ち	て	き
た	。	先	生	か	ら	指	示	を	ま	れ	、	机	の	下	に	も	ぐ	っ	て
親	が	く	る	ま	で	待	っ	て	い	た	。	女	の	子	は	ほ	と	ん	ど
の	こ	と	が	恐	怖	で	泣	い	て	い	た	。	2	時	間	く	ば	い	し
て	親	が	も	か	え	に	き	て	帰	。	た	ん	で	す	が	、	げ	ん	か
ん	や	体	育	館	の	天	上	が	落	ち	て	い	て	ビ	ッ	ク	リ	し	ま
し	た	。	そ	し	て	家	に	帰	り	、	そ	の	日	か	ら	水	が	と	ま
り	近	く	の	公	園	で	水	を	も	ら	い	た	い	く	日	々	で	し	た
そ	の	体	験	を	し	た	僕	は	、	水	や	物	の	大	切	さ	を	あ	ら
た	め	て	感	じ	る	こ	と	が	で	き	た	の	で	物	や	水	を	こ	れ
か	ら	大	切	に	使	っ	て	い	ま	た	い	と	思	い	ま	し	た	。	今
後	は	こ	の	よ	う	な	原	状	を	二	度	と	お	こ	さ	な	い	よ	う
に	し	て	も	ら	い	た	い	な	と	思	っ	て	い	ま	す	。			

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菊田 絢也

年齢 17 歳

職業・学校名 富岡高校

2011年、3月11日、14時46分には
 その悲劇は突然に起きた。僕達はそのとき、
 卒業式の練習をしていた。すると地震が起きた。
 最初の震度はとても緩やかなものだった。
 のだが地震は勢いを増していく。さきまひ
 自分たちのいた体育館はガラスが割れ、菓校
 のガラスも割れえいく。天候も雪が降り、たり
 雨が降り、たりおかしかった。まるで世界の終
 わりがきてしまうんじゃないかと思うほどす
 さましかった。まだ幼かった僕にも事態の深刻
 さが伝わってくるのが分かった。そして学
 校に父が迎えに来てくれた。ま、さきに家族
 の無事を確認したことを今でもは、きり覚え
 ている。この時改めて家族の大切さを実感
 した。その後から徐々に発覚していく原発問
 題。それは今でも解決はしていないけれど、
 1日でも1秒でも早く原発問題が解決して、
 みんなが安心してくらし生活に戻れるよう
 に、震災を克服した人達の分まで毎日を必
 死に生きていきたいと思う。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菊地 諒 年齢 17 歳 職業・学校名 富岡高校

東日本大震災当時私は小学6年生だった。
 いつも通りの学校生活を終え下校していると
 地震がきた。初めは小さな揺れだったがそれ
 ではおわらず強い揺れに変わり真っすぐ歩け
 ないほどの地震となり、歩道や道路は地割れ
 しガラスが振動しすごい音をだしていた。地
 震はおさまったものの津波が家まで押し寄せ
 ていたため家には帰ることはできず学校に避
 難した。避難所には多くの人が避難していた。
 地震の影響で一時停電し水道は長い間止まり
 水を使えなかった。このとき、
 大それて自分はまだ津波の心配があるため親
 戚の家へ避難させてもらうことになった。そ
 こで見たテレビの映像に言葉がでなかった。
 津波に流されていく家や人多くの死者がで
 たりただことではないのは明らかであった。
 そして原発の問題も追いうちをかけるように
 やってきた。
 この大震災の影響は少しずつ回復してきて
 いるが原発による被災はすさまじかった。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 東原 慧

年齢 17 歳

職業

学校名 富田高校

2011年3月11日14時46分、その
 悲劇は突然に起きた。当時小学6年生だ、
 僕は、卒業式を日後に控えていた。僕たち
 6年生は、お世話には、た先生方に感謝を伝
 える会「謝恩会」を体育館で行っていた。そ
 んな時だ、た。突然、体育館は揺れた。最初
 は大したことないだろうと思い、笑い話で済
 むは可だ、た。しかし、揺れはどんどん大き
 くなり、僕たちは先生方と共に校庭へ避難し
 た。辺りは暗くなり、校舎は揺れ、小学6年
 生はがら普通でははいことはすぐにわかった。
 それから、今まで当たり前だ、たことが当
 り前ではなくなる生活が長く続いた。
 そして今、そのまうは状況から何が変わ
 るだろうか。今でも仮設住宅で避難生活
 を送っている人がいて、原発事故により未だ
 に立ち入りが制限されている区域もある。地
 震や津波などの自然災害は人間ではどうし
 うもどまはいが、少しでも復興し、一人でも
 助けることはできるのをはいでしようか。

(20文字×20行)